

総合人間科学 英 語

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
病院教授	0 人
准教授	1 人
病院准教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人（0 人）
病院講師	0 人
助教（うち病院籍）	0 人（0 人）
診療助教	0 人
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人（外国人教師）
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合計	3 人

2 教員の異動状況

中安 美奈子（教授）（H19.8.1～准教授; H25.4.1～現職）

Kuramoto, Christine D.（H25.4.1～現職）

O'Dowd, Gregory V.G.（外国人教師）（H14.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編（0 編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakayasu M: Bridging the Gap between General English and English for Specific Purposes at a Japanese Medical University. In: Gitsaki C, Alexiou T eds. Current Issues in Second/Foreign Language Teaching and Teacher Development: Research and Practice. Cambridge Scholars Publishing, Cambridge, pp190-209, 2015. (IF: 0.00)
2. Nakayasu M: Spatio-temporal Systems in *A Treatise on the Astrolabe*. In: Conde-Silvestre JC, Calle-Martin J eds. Approaches to Middle English: Variation, Contact and Change (Studies in English Medieval Language and Literature 47), Peter Lang, Frankfurt am Main, etc., pp243-259, 2015. (IF: 0.00)
3. Kuramoto C, Kuramoto T: International Service-Learning in Nicaragua. *Journal of Medical English Education* 14(3): 99-102, 2015. (IF: 0.00)
4. O'Dowd GVG: Black Swan Theory and PBL in Japanese Universities. In: Clements P, Krause A, Brown H eds. JALT2014 Conference Proceedings, JALT, Tokyo, pp395-401, 2015. (IF: 0.00)
5. O'Dowd GVG: Learning about PBL from Foreign Students. In: Clements P, Krause A, Brown H eds. JALT2014 Conference Proceedings, JALT, Tokyo, pp402-407, 2015. (IF 0.00)
6. O'Dowd GVG: Doctor-Patient Discourse: Preparing for Intercultural Medical Communication [医師と患者の談話: 異文化医療コミュニケーションの準備]. *Reports of Liberal Arts Hamamatsu University School of Medicine* 30: 45-60, 2016. (IF: 0.00)

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 園城寺康子, 川越栄子 (Kuramoto D 校閲): *Nursing Terms and Expressions Everyday Uses*, 2nd Edition, Medical View, Tokyo, 2016.

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度	
（1）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	4 件	（195 万円）
（2）厚生労働科学研究費	0 件	（0 万円）
（3）日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	（0 万円）
（4）科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件	（0 万円）
（5）他政府機関による研究助成	0 件	（0 万円）
（6）財団助成金	0 件	（0 万円）
（7）受託研究または共同研究	0 件	（0 万円）
（8）奨学寄附金	0 件	（0 万円）

（1）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

1. 中安美奈子（研究代表者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）“How Did Speakers Regulate Space and Time? Pragmatic Development of the Spatio-temporal Systems”（130万円）（新規）
2. Kuramoto C:（研究分担者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究「外国人模擬患者を全国医学部の面接技能教育に活用する方法の研究」（10万円）（継続）
3. Kuramoto C:（研究分担者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「自己主導型学習能力獲得のための、医学部6年一貫したモデルカリキュラム開発研究」（20万円）（継続）
4. Kuramoto C:（研究分担者）：日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「専門職（教員・医師）養成におけるサービス・ラーニングの教育効果に関する実証研究」（35万円）（継続）

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（1）特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
（2）シンポジウム発表数	0 件	0 件
（3）学会座長回数	0 件	0 件
（4）学会開催回数	0 件	0 件
（5）学会役員等回数	0 件	0 件
（6）一般演題発表数	3 件	2 件

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

1. Nakayasu M: Spatio-temporal Systems in Margaret Paston's Letters. 9th International Conference on Middle English (ICOME 9), Philological School of Higher Education, Wrocław, Poland, May 2015.
2. O'Dowd GVG: Experiential ICC Tasks for Language Learners: Structured Dialogues, Role Play, Improvisation, and Reflection: Introducing Intercultural Communicative Competencies to Japanese Medical Students. 第41回全国語学教育学会年次国際大会, 静岡県コンベンションアーツセンター, 静岡市, November 2015.
3. O'Dowd GVG: Tales from the Learner Centered Classroom: What Do Our Students Really Learn in Class. 第41回全国語学教育学会年次国際大会, 静岡県コンベンションアーツセンター, 静岡市, November 2015.

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名

1. Kuramoto C: The 18th JASMEE Academic Meeting, Okayama, Japan, July 2015.

5) 一般発表

1. Ashida R, Kuramoto C: Expectations for the Continued Use of English-speaking Simulated Patients in Medical Education – Different Years, Different Objectives, and Different Approaches. The 18th JASMEE Academic Meeting, Okayama, Japan, July 2015.
2. Hirano M, Kuramoto C, Shinozaki E, Ashida R, Ono S: Nursing Communication Sessions with English-speaking Simulated Patients for Japanese Student Nurses. The 18th JASMEE Academic Meeting, Okayama, Japan, July 2015.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 中英語における時空間体系（中安美奈子）

本研究の目的は、中英語における時空間体系を歴史語用論の視点から体系的に分析することである。時空間体系には語用論的なファクターが密接に関わっているにもかかわらず、歴史的なデータにおいては、語用論的な分析はいまだ不十分であると言わざるをえない。時制や人称代名詞といった時空間に関する文法範疇や形式に着目し、言語行為等のマイクロなレベルにとどまらず、談話等のマクロなレベルに踏み込んだ分析を行い、こういったファクターが相互にどのように関連しているのか、また、談話においてどのように展開するのかについて検討した。

2. Corner of Love Japan（USAの医療活動NPO）の日本代表（学生をニカラグアに引率するため）（2009年2月より現在）（Christine D. Kuramoto）

科研C「専門職（教員・医師）養成におけるサービス・ラーニングの教育効果に関する実証研究」の共同研究者として国際サービス・ラーニング in Nicaraguaを本学の授業（1単位）として実施している。In relation to this project I also gave two 90 minute lectures explaining the service-learning medical missions to Nicaragua to 2nd year medical students at Kyushu University (4/13/2015) in their Global Medicine course. These lectures informed the students about the situation in San Ramon Nicaragua and the medical clinics held by NPO Corner of Love. A question and answer time followed each lecture.

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. Simulated Patients Pitch Japan's Medical Students Cultural Curve Balls.

<<http://www.japantimes.co.jp/community/2016/01/27/issues/simulated-patients-pitch-japans-medical-students-cultural-curve-balls/#.VqILwvmLRD9>>

2. Juzen Hospital Magazine Article